

ときめき人

Tokimeki bito



地元の良さを再発見してほしい

登米町・鉄西

須藤 勝子さん

すとう・かつこ
1954年(昭和29年)生まれ 血液型/A型

Profile

栗原市出身、登米町在住。大学卒業後38年間教員を務め、今年3月に登米小学校で定年を迎えた。趣味は登山と写真、料理。登山は主に東北地方の山々を登り、写真は高山植物や子どもたち、市内の動植物を撮影。本に掲載している写真は自ら撮影したもの。



—「登米探訪」—
A4判カラー(147ページ)
遠山之里、市内書店、仙台丸善などで販売中

「どこの地域にも、その地域ならではの良さがある。自分の地域の良さを再認識してほしい」。今年3月登米町の歴史や自然、食文化をまとめた『登米探訪』を自費出版した須藤さん。

前登米小学校長の須藤さんが、本を書いたきっかけの一つは東日本大震災。震災当時、気仙沼市内の小学校に勤務していた。日常の当たり前が、一瞬でなくなることを目の当たりにした。学校の歴史や美しい自然、地域の資源を記録として残しておかなければと。その思いが強くなり、校長を歴任した小学校でこれまで3冊の本を発行した。

1983年から6年間、登米小学校の教諭を務め、2013年に校長として再赴任。定年までの2年という限られた時間の中で休日を利用して、資料や文

献を調べ取材。写真や分かりやすい解説文で、誰にでも読んでもらえるよう心掛け編集した。江戸時代からの歴史や美しい自然、今回は人と土地の繋がりにもスポットをあて、初めて食文化にも触れた。また「自分の生まれ育ったふるさとを知り、ふるさとに誇りを持って生きていく子どもたちが育っていくことを願っています」と、あとがきに書いたとおり、本稿の随所で子どもたちへの思いが書かれている。

登米に暮らし、地元を愛する須藤さん。「これまで支えてくれた人たちにお返ししたい」と、現在は観光ガイドボランティアとして活動している。訪れた人にも分かりやすく登米の良さを伝えたい。今日も須藤さんは笑顔で出迎える。

編集後記

▼特集と第2特集の空手、野球などを担当。一流のアスリートたちの話を聞かせてもらった。年齢、種目は違えど、全員に共通しているのは①自分の競技が好き ②周囲への感謝の気持ちを持っている ③努力を続けている。スポーツと仕事、ジャンルは違えど大切なものは変わらない。(及川)

▼取材で登米町の教育資料館に行ってきた。取材を終え、帰ろうとしたときに敷地内にある石碑が目にとまりました。登米町の名誉町民、渡邊政人の遺訓が記された顕彰碑です。郷土を愛し、郷土の発展に尽くした偉人。その言葉に胸が熱くなりました。(佐藤)

▼広報とめのコーナーには、特集やときめき人などがあります。皆さんのご協力があります。広報は作られます。広報に載る機会はめったにないものです。その人にとって、一生の思い出になるかもしれません。皆さんの輝きを、文章や写真でうまく表現できるように頑張ります。(田代)



モバイルとめ
(携帯電話版ホームページ)
<http://www.city.tome.miyagi.jp/m/>



登米市メール配信サービス
(防犯や防災、イベント・市政に関する情報をメールでお届けします。)
<http://tomecity.mail-dpt.jp/>